

<第4158回>

目的地：上高地～槍ヶ岳～新穂高温泉

担当者：中村博一・田名部大

実施日：2021年7月29日(木)～8月2日(月)

形式：小屋&民泊縦走

費用：¥60,000-

参加者：8名

中村博一(L)・西山由加里・赤松朋子・森田千幸(以上、前泊組)

田名部大(SL)・眞鍋美和・岩谷多恵子・谷口秀子(以上、夜行組)

行程：

7月29日 天気：晴れ

<前泊組> 大阪阪急三番街(7:00)⇒京都深草BS(8:05)⇒上高地バスターミナル(13:00)→(13:15)西糸屋山荘(13:25)→(14:00)上高地帝国ホテル(14:45)→(15:30)西糸屋山荘

<夜行組> 大阪阪急三番街(21:30)⇒

7月30日 天気：晴れ時々曇り

<夜行組> ⇒大正池BS(5:10)→(5:20)大正池(朝食)(7:15)→(8:00)西糸屋山荘(前泊組と合流)

<合流後> 西糸屋山荘(8:00)→(9:10)明神(9:25)→(10:35)徳澤(10:50)→(11:50)横尾山荘[昼食](13:00)→(14:50)槍沢ロッヂ

7月31日 天気：曇り

槍沢ロッヂ(6:05)→(6:40)ババ平(6:45)→(7:20)槍沢大曲(7:30)→(11:30)殺生小屋[昼食](12:10)→(13:20)槍ヶ岳山荘(14:05)→(14:35)山頂(14:45)→(15:30)槍ヶ岳山荘

8月1日 天気：曇りのち雨

槍ヶ岳山荘(9:53)→(13:30)槍平小屋(14:15)[昼食]→(15:30)滝谷避難小屋前(15:40)→(17:45)白出小屋(17:50)→(18:35)穂高平避難小屋(18:40)→(19:40)高山警察署登山指導センター

<中村以外> 高山警察署登山指導センター(19:40)(ヨーデル号)⇒(19:50)ペンションヨーデル

<中村> " (20:10) ( " ) ⇒(20:20) "

8月2日 天気：晴れ

ペンションヨーデル/中尾白山神社(9:24)⇒(11:01)高山駅(11:20)⇒(11:30)高山警察署(12:00)⇒(12:15)高山駅(13:40)⇒京都駅八条口(18:05)⇒大阪阪急三番街(19:00)[解散]

感想：

はじめに、今回の例会では肩の小屋で1名が高山病のため動けなくなり、ヘリで搬送されるという事態が発生いたしました。また、そのため出発が4時間遅れ、下山が夜になってしまいました。幸い、大事には至りませんでした。これを会全体の教訓として今後に活かさねばと考えています。

さて、前泊組は上高地までの車中が我々4人だけというかつてない快適なバスの旅を楽しみ、定刻より40分以上早く上高地に到着。帝国ホテルのカフェでお茶を楽しみ、穂高をバックに写真撮影するなど上高地を満喫しました。宿の西糸屋山荘では男女別相部屋に泊まりましたが、男性(中村)は8人部屋にひとりだけ、女性(3人)も4人部屋を独占と、ここでも貸し切り状態。快適に過ごしました。

翌朝、夜行組は大正池バス停で下車し、前夜に買い込んだ高級食材で朝食を楽しみました。8時に河童橋で合流。3日間の山旅が始まりました。

1日目、距離にして約3分の2は、上高地から横尾まで梓川沿いの平坦な道のりです。横尾山荘で昼食をとり、名物のソフトクリームを食べたりとリラックスムード。ここからようやく登り傾斜になりますが、それでも比較的緩やかで、横尾から2時間足らずでこの日の宿泊先 槍沢ロッヂに無事到着。途中、季節外れの化粧柳の綿毛が風に舞うのを随所で目撃。通常は6月末から7月初旬に舞うそうで、かなりの回数上高地を訪れている田名部さんもこの時期に見るのは3度目とのことでした。

槍沢ロッヂでは、はなれの2階(二部屋)を我々8人だけで利用しました。

2日目、6時に槍沢ロッヂを出発。前日同様、ゆっくりとしたペースでかつ30分歩くごとに休憩をとりながら槍ヶ岳を目指しました。天狗原分岐あたりまで来ても、上の方はガスがかかって槍の穂先はなかなか見えません。11時半、殺生ヒュッテに到着し、カレーライス・うどんなどで昼食を済ませました。このあたりから雲の間にちらほらと穂先が見え出し、時折歓声も。あと少し!最後の急登を登り切り、槍ヶ岳山荘に13:20到着。45分間の休憩後、空身で穂先を目指しました。夏山シーズンは大渋滞するというハシゴもほとんど待つことなく、スイスイとコースタイムどおり30分で登頂!「私に登れるのか」と不安がっていたメンバーも何人かいましたが、全員無事登頂し、ひとりずつ笑顔で写真撮影。約10分間そのまま穂先で休憩。ガスで眺望はありませんでしたが、達成感と充実感に包まれた10分間でした。下りは高齢者のグループが前にいたため、少し渋滞しましたが45分間で山荘到着。到着時には、感動して涙ぐむメンバーも。槍ヶ岳山荘では、多い時にはおそらく20人程度泊まるであろう部屋を我々8人だけで利用。夕食まではみな元気に過ごしていま

したが、あとで聞くと21時ころから山さん（仮称）の体調が悪化していたとのこと。中村も夕食時くらいから頭痛を発症していました。

3日目、5時からの朝食に、中村は「気分がわるいので横になっている」と他のメンバーに伝えていましたが、山さんも朝食会場に現れず。岩谷さんが様子を見に行き初めて、山さんがほとんど動けない状態であることがわかりました。体温は正常でしたが、血中酸素濃度は90%を下回っており、小屋に酸素濃度を上げる機器を借りて装着。折悪しく、槍ヶ岳山荘横の慈恵医大診療所には医師・看護師等不在で、帰着は昼過ぎなとのこと。満田会長に連絡し、6:30 岐阜県警に救助を要請しました。県警のヘリは9:30 に到着。この間、満田会長、山本副会長、山さんのご両親とも随時連絡をとりました。また、中村も高山病の症状を発していたため、田名部さんがほとんどの判断を下していただきました。

山さんのヘリ搬送後、残ったメンバーは10時に槍ヶ岳山荘を出発。新穂高温泉を目指しましたが、この時点で当初の予定より4時間遅れとなっていました。昼食場所である槍平小屋を出発したのが14:15。このあと、田名部さんの足の皮がめくれたことから、滝谷出会（15:40）から中村他4名が先行することに。眞鍋さんは田名部さんに付き添っていただくこととしました。中村他が先行したのは、麓にある高山警察署登山指導センターに立ち寄り、ヘリ搬送に関して説明する必要があったからでもありました。

先行組は明るいうちに林道にたどり着くことができ、20時ころ登山指導センターに到着。そこまでペンションヨーデルに車で迎えにきてもらいました。田名部さん、眞鍋さんも明るいうちに林道にたどり着くことができ、20:30 ヨーデルの車に乗り込みました。

ペンション到着後、満田会長へ下山の報告。山さんからはすでに回復・退院し高山市内のホテルに宿泊していることをお聞きし、ほっとしたのを思い出します。また、山さんのお母さまからも「お世話になった」とお礼の電話をいただきました。

最終日、大変お世話になり、ご迷惑もおかけしたペンションヨーデルさんにお礼を述べて9:20に出発。高山駅に11時ころ到着、山さんと合流。全員が無事を喜び合った瞬間でした。その後、田名部さん、眞鍋さん、山さん、中村の4名は高山警察署に前日のお礼のあいさつのため訪問しました。13:40 高速バスで高山駅を出発、帰阪の途に。

今回、高山病の怖さを思い知りました。高山病は重篤な場合、肺水腫・脳浮腫などを発症し、死に至る危険もあります。また、個人の体力や経験に関係なく発症することもありました。実際、山さんよりも3,000m級の山の経験が少なく、体力で劣っていたメンバーには問題はありませんでした。過去に問題がなかったとしても、しっかりとした準備や対策が必要であると実感しました。（事故の詳細は「事故報告書」にゆずります）

特記：

以上